

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com> FB 港北区災害ボランティア連絡会

83号 2020年1月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

新年のご挨拶

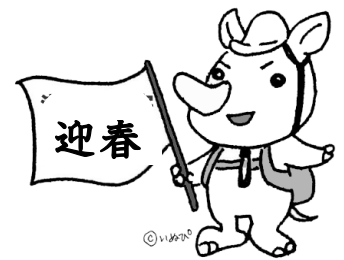
港北区災害ボランティア連絡会会長 宇田川規夫

あけましておめでとうございます。皆様健やかに新年を迎えられたことと思います。

しかし昨年も日本各地で発生した水害は大きな被害を東日本中心にもたらし、この正月も自宅で迎えることができない方が大勢います。今年も頻発するだろう水害や、切迫性が語られる南海トラフ巨大地震、首都圏直下地震など災害への懸念が高まるこの日本です。

そんな状況を受け、日ごろからの減災啓発活動と、発災時にボランティアセンターを運営する能力の向上は私たちにとって欠かせない課題です。

会員一人一人ができる事はそれぞれ違いがあります。その前提を踏まえ会員各自が積極的に発言し、それぞれができることに積極的に関わっていく災害ボランティア活動を今年も皆さんと一緒に作ってきたいと思います。すべての会員の方々のご協力をよろしくお願いいたします。



横浜災害ボランティアネットワーク会議 Aブロック連絡会合同研修会 参加報告

11月21日に開催された「横浜災害ボランティアネットワーク会議Aブロック連絡会合同研修会」に参加しました。テーマは、「SNS ツイッターを利用した[DITS/DIMS]情報システム」です。近年、災害発生時に活用されているTwitterによる、より有効な情報収集手段として開発された「DITS (Disaster Information Tweeting System)」の紹介と体験です。講師は、DITSの開発者でもある東海大学情報工学部情報科学科の内田理教授です。

Twitterは、Windowsパソコン・MACパソコン・スマホ・ガラケーどれからでも140文字以内の文章や写真・動画が投稿・閲覧できる、人気のSNSです。「# (ハッシュタグ)」と呼ばれる記号をつけたキーワードをつけて投稿することで、だれでも簡単に必要な情報の検索や収集ができます。例えば2020年**月**日に港北区で災害が起きた時「#港北災害

2020****」を最後につけて投稿することで、2020年**月**日に港北区で発生した災害に関する情報のみを、誰もが簡単に収集・閲覧することができます。「#〇〇災害」として情報をTwitterに書き込む方法は、2011年の東日本大震災以降急速に広まり、2017年九州北部地震・2018年北陸豪雨・2018年大阪北部地震・2018年台風21号そして今年の台風15号19号においても、被害状況やSOS情報の発信・収集・共有に大活躍をしています。

国もこのTwitterによる災害発生時の情報の発信機能に注目し「災害状況要約システムD-SUMM」を開発しています。これは発信されたTwitter情報を集約し地図上に表示するものです。場所はツイートの文字列から類推するのですが、ツイートに場所を示す文字列が含まれていないと表示されないという欠点がこの欠点をカバーするために、投稿に「#〇〇

市災害」(横浜は区名)と「現在地の住所」「UTMポイント(MGRSコード)」による位置情報コード(10mレベルで位置特定が可能)を自動的に付与することを可能にしたのが、DITS(Disaster Information Tweeting System)です。DITSはWEBアプリケーションのため、事前のインストールが不要で、PC/スマホやOSを選ばないという利点も持っています。しかも「無料」で公開されています。自動的に「位置情報」が付与されるため、

1. 位置情報により、被災地から発信された情報かどうかの識別が可能
2. 位置情報のないTwitterを排除・警戒することで情報の選別が可能
3. 位置情報により発信場所が特定されることで、デマの発信を抑制

という特徴ももっていて、Twitterで問題視される無責任なデマ(「虎が逃げた」などなど)

を大幅に抑制することができます。DITSによりTwitterで投稿された情報は、DIMS(Disaster Information Mapping System)システムの利用で、地図上に表示されます。しかもその位置情報の精度は10mレベルのため、SOS情報の取得などには非常に有効となります。

一方で位置情報の自動付与のため、PC・スマホ・携帯のブラウザ・Twitterでのブラウザでの位置情報の有効化が必要であり、この操作や操作説明には課題が残っています。(OS・ブラウザの種類やバージョン、スマホ・携帯の機種により設定方法が異なることから、一律な説明やマニュアルの作成が困難なところがあります)

課題はあるものの、注目に値するシステムであることは間違い無いと感じました。

(中島一郎)

ボランティアセンター設置シミュレーション訓練振り返り

シミュレーション訓練全体の振り返りについて、今回は区ボランティア班の視点からに絞ってお話させていただきます。

まず、区ボランティア班の主な役割としては、①区本部からのボランティアセンターの開設要請を社協・災害ボランティア連絡会に連絡して開設準備依頼を行う、②設置された後は職員を派遣し、区本部からのボランティア派遣要請や情報の共有を行い、逆にボランティアセンターからの情報を区本部に伝える、というものになります。

今回の訓練では①②に関する連絡方法の確認を行いました。電話により連絡調整を行い、区・社協・災ボラがどう動き、どうボランティアセンターが設置されるのかを確認し、その際、電話でのやり取りについて逐一参加者に説明し、具体的な流れがイメージできるように工夫しました。実際被災した時、災ボラの方々が見えないところでこのような動きが進められているということをイメージできた

ことは、ボランティアセンター設置するにあたってとても有効な訓練となったのではないのでしょうか。

一方で課題もありました。連絡体制は電話・無線を想定していましたが、無線に関しては建物の構造上の問題で電波が届かず、全く使い物にならないことがわかりました。実際に被災した時の連絡手段についても最善の形を追求していく必要があります。これは実際に使用してみた訓練を行ったからこそわかったことです。被災したことを想像し、実際にシミュレーションを行い、体を使って見るということの重要性を改めて実感しました。

以上は区ボランティア班の視点からの振り返りですが、災ボラ・社協とともに今回シミュレーション訓練から浮き彫りになった課題についても共通の認識を抱いています。一気に完璧なものとはできません。引き続き一歩ずつ歩みながら前進していければと思っています。

(港北区役所 ボランティア班 濱嶋亮平)

災害ボランティアシミュレーション訓練を終えて

ボラセン開設までの手順、区役所（災害対策本部）・区社協・災ボラとの開設準備のやり取り（通信訓練）、ボランティア受付時間の検証などが行われました。やってみると、検証が必要な事柄がいろいろ見えてきました。スマホや PC を使った安否確認訓練ではトラブルもありました。

ボランティア受付検証は、15 分で 27 名受付完了という結果で、2 名の受付担当はとても疲れたそうです。振り返りでも意見が出ましたが、ボランティア登録書の特技・資格欄は、中の項目も含めて見直すべきかもしれません。必要な特技を持つ人を登録書からすぐに見つけて活動依頼するのは難しそうだし、項目が多いと記入漏れが出たり、チェックに時間が掛かったりするでしょう。

ボランティアが付ける名札についても検討



すべきと思いました。漢字だけ、ローマ字だけ、片仮名は、正しく読めない人もいます（外国人や子供など）。漢字に平仮名とローマ字での振り仮名が理想的かもしれませんが、大判の名札が必要です。

今すぐやって来るかわからない災害ですが、訓練を続けることの必要性を再認識しました。

（室伏俊明）

災害ボランティア連絡会のシミュレーション訓練に参加して

12月8日（日）に災害ボランティア連絡会（以下災ボラと略）のシミュレーション訓練に夫婦で参加しました。今回の訓練は通常の受付対応訓練と違い、ボランティアセンターを設立する前の段階の準備を確認するための訓練で、実際にどんなことを行うのか想定できない状態でしたが、実際に参加してみ

- ・ボランティアセンターを設立するためにどんな設備や備品が足りないのか？どのような設備や備品は必要なのか？訓練して判明したこと。
- ・情報伝達手段（メール連絡など）の講習会を行うことで、情報の取得方法がバラバラであることがわかったこと。
- ・ブレインストーミングを行うことで、必要な設備や備品を確認でき、また、良いアイ

アも出たこと。

など、参加者全員が、ボランティアセンターを設立する前の現状の状態をきちんと確認・共有でき、非常によい訓練だったと思います。

個人的な気付きですが、耳の不自由な立場からすれば、実際にボランティアセンターに耳の不自由な方が来所されて受付をされることはあるのか存じませんが、折角、筆談器があるのに受付に置いていなかったのは残念でした。ただ、今回の訓練で、筆談器の有無が確認できたのは良かったと思います。

私の場合、災ボラの定例会になかなか参加出来ないため、今回のようなイベントに参加して貴重な経験ができ、大変感謝しております。ありがとうございました。

（港北区聴覚者協会近藤寿一郎）

災ボラと区役所、区社協との三者でシミュレーション訓練

お天気に恵まれた昨年12月8日（日）港北区福祉保健活動拠点にて災害ボランティア連絡会と区役所、区社協との三者で災害ボラン

ティアセンター立ち上げのシミュレーション訓練を実施いたしました。

開会のあいさつ後、サークルスクエアというグループウェアを使った会員内での安否確認を行いました。スマホとパソコンの設定の違いでサイトの画面が見られない、普段パソコンでしかサークルスクエアは使わないので外出先だと連絡が取れない等の課題がでました。使い方に関しては皆で行ったからこそ他の会員の利用環境を確認し合うことができました。

安否確認後は区役所から無線で開設要請を受ける訓練をしました。残念ながら無線は障害物の関係でうまく繋がらず、電話での対応になりましたが、連絡会会員の中にはシミュレーション訓練が初めての方もいたので流れを実際に聞くことができ、イメージがつけられたのではないのでしょうか。

その後のワークショップではボランティアセンターのレイアウト決めや必要物品の確認。

実際にボランティアの受付を体験し、15分間で何人対応できるか、受付票の様式は今の



ままで良のか等の検討をしました。

ランチミーティングではおにぎりを食べながら午前中の反省や課題を話し合いました。聴覚障害の方も一日参加してくださり、受付に筆談のボードを用意しておいた方が良い等のご意見を頂きとても参考になりました。

年1度の訓練ですが毎年行うことでいざというときに動ける体制が作れると思います。

(港北区社会福祉協議会 田中元子)

港北区災害ボランティア連絡会 セミナー

2020年3月15日(日) 9時30分~12時30分 港北区役所4階会議室

台風19号・港北区の「現実」を知ろう
改めて常総市から学ぼう

被災地とつながり続ける意味は・・・

- ・なんで被災後に新しい地域拠点を作ったんだろう
- ・地域作りと防災が何故関係するんだろう
- ・もし港北区で災害が起きたら何をしなければならないのだろう



助け合いセンター「JUNTOS」代表：横田能洋さんからお話を伺います

編集後記

☆感想にもあるとおり、多くの課題が見つかる良い訓練が出来ました。しかしボラセンが必要になる事が無いよう祈る新年です。
(宇田川)

☆温暖化の影響で、今年も昨年以上の風水害の発生が予想されます。しっかり備えたいです。
(室伏)

☆年忘れをして、新年を迎える。ですが、災害の記憶は、忘れてはいけません。東日本の各地の復興も、まだまだです。(中島)

☆記録的な雨に恐怖。ある程度までは垂直避難と思っていたのですが、腰までの雨の中を歩いて避難所まではとても不安です。(付岡)